

臨床薬理センター

1. スタッフ

センター長（兼）（教授）藤村 昭夫
 室長（准教授）安藤 仁
 医員（兼）（助教）牛島健太郎
 医員（兼）（助教）細畑 圭子

2. 臨床薬理センターの特徴

臨床薬理センター薬物治療支援室は、平成13年4月から専任医員1名および兼任医員4名（医学部薬理学講座臨床薬理学部門）で活動を開始し、臨床薬理学的知識に基づいた適正な薬物療法について、臨床各科からのコンサルテーションを受け、これに対し助言を与えている。主な内容は以下のものである。

- 1) 臓器移植後の免疫抑制薬に関する治療薬物モニタリング (TDM)
- 2) 妊婦・授乳婦に対する薬物情報の提供
(産婦人科・精神科)
- 3) 薬を用いた臨床研究計画申請書の事前審査
- 4) 治験申請案件の事前審査

・施設認定

日本臨床薬理学会認定医制度研修施設

・認定医

日本臨床薬理学会指導医	藤村 昭夫
日本臨床薬理学会認定医	藤村 昭夫 他1名
日本内科学会指導医	藤村 昭夫 他1名
日本内科学会認定内科医	安藤 仁

3. 実績・クリニカルインディケーター

- 1) 臓器移植後の免疫抑制薬に関するTDM
 生体肝移植患者に対する免疫抑制薬のTDMコンサルテーションを行った。
 47症例 732件
- 2) 妊婦・授乳婦に対する薬物情報の提供
(産婦人科・精神科)
 産婦人科および精神科からの妊産婦・授乳婦への薬物療法に関するコンサルテーションに対し助言を与えた。
 59症例 165薬
- 3) 薬を用いた臨床研究計画申請書の事前審査
 大学疫学研究倫理審査委員会申請書のうち、薬に関する臨床研究申請書の事前審査を行った。

申請書数：54件

4) 治験申請案件の事前審査

本院で行われる治験のヒアリングに参加し、臨床薬理学的立場から治験依頼者に対する質問等を行った。

プロトコール数：25件

4. 事業計画・来年の目標等

ひき続き、院内の薬物療法適正化のために適切な助言を与える。